

# 特集

## 土木遺産を学ぶ旅

Heritage Tour

特集担当主査：榎本碧、西山 孝樹

特集企画担当：田中尚人、山本礼子、今井嵩弓、植野弘子、橋本美月

本特集は、「土木遺産を学ぶ旅」と題した「旅」を通じて、現場に行くことでしか感じ取れない価値について考えたいという点は、日本造園学会との共同編集企画と共通する。遠隔や仮想空間において現実を再現する試みは今後にも拡大していくだろう。この時、私たちが現場で何を見て、何を感じたのか？ その場に行くことで得られるものは何か？ を考えておくことは重要ではないか。

本特集タイトルの着想は、グランドツアーにある。近世英国では公共事業を担う技術者たちがヨーロッパ大陸の古代、ルネサンスの都市の街並みや、先人のさまざまな技術者たちが手掛けた建造物を「学ぶ」旅に出た。これまでに土木学会誌では、特集、連載を通して多くの土木遺産を紹介してきたが、現代においても私たちが携わるさまざまな土木事業はこうした土木遺産の系譜の上にある。また現役で役割を担う土木遺産は、長寿命化時代に目指す土木建造物の姿の一つといえる。このように、自然や人間生活と長き

にわたりうまくつき合ってきた土木建造物の好例を、現地に足を運んで見る（経巡る）ことは、土木技術者が知識や技術を学ぶ上でこれからも必要なプロセスではないだろうか。

本特集は、土木遺産を「どのよう」に訪ねて見るかについて、表紙、日本造園学会との共同企画でも取り上げた紅葉谷川庭園砂防施設砂防堰堤を題材に編集委員と学生委員が取材し、土木技術者や土木を学ぶ学生が現場へ旅する際に見るべきポイントを包含したルートを紹介した。

また、「なぜ」土木遺産を学ぶのかという問いに対して、土木遺産から何を読み取ることができるか、それらの知見を土木事業や地域づくりにどのように生かすかについて、土木史研究や土木遺産の取り組みに関わる北海道開発技術センターの原口征人氏、関西大学准教授の林倫子氏に語っていただいた。加えて、土木遺産の今後に向け、保存や活用に関する現在のイシューを、実務の立場から前ユネスコ日本政府代表部

専門調査員で現CNR S建築・都市・都市計画・環境研究室研究員の前島美知子氏、文化財保存計画協会の崔静妍氏に紹介いただいた。さらに対談では、台南應用科技大學専技副教授の仲間浩一氏にご参加頂き、台湾と英国の遺産ツーリズムを紹介するとともに、土木遺産の見方、見せ方について意見を交わした。

編集後記では、編集委員で検討した土木遺産の旅のルートづくりのポイントと、今後の旅の計画に向けておすすめの本を紹介した。

本特集を通して、まずは土木学会誌で連載する「見どころ土木遺産」などで紹介した身近な土木遺産を訪ねてみようと思っただけならば幸いである。